

かじか



令和2年6月1日
岩国市立美川小学校

子どもたちがいる学校はいいなあ

教頭 岡崎 邦恵

木々の新緑がまぶしく気持ちのよい季節です。しかし、新聞・テレビ・インターネットでは新型コロナウイルス関連のニュースが繰り返し報道されています。3月初旬よりの新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業につきましては、保護者や地域の皆様に多大なるご協力をいただきありがとうございました。感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのさまざまな自粛や、長期にわたる臨時休業は、誰もが経験したことはありませんでした。2月27日に安倍総理から発表された一斉休校要請に、「学校には子どもたちがいて、授業が行われている」という、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前でないことに気付かされました。本校では、子どもたちのために何ができるのかを考え、美川小だからできることに取り組んできました。そこで、子どもたちの学習保障をするために、毎朝、学習課題を届けました。家庭での子どもたちの様子はいかがでしたでしょうか。ゆっくり話をしたり、お手伝いをしたり、日頃忙しくてできないことに取り組めたでしょうか。家族と一緒に過ごすことで、今まで気付かなかったことに気付いたり、お互いの考えを理解し合ったりできたのではないのでしょうか。

今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなったとき、私たちは物のありがたさや周囲の人たちへの温かさに気づき感謝の心をもちます。学校が再開され、教室から子どもたちの発表の声が聞こえてきます。休み時間には子どもたちが運動場で走り回って遊んでいます。その様子から「子どもたちがいる学校はいいなあ」としみじみと感じています。緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ予断を許さない状態です。最近よく聞く言葉ですが、「ピンチをチャンスに」

「プラス思考で」。子どもたちには、今回のことから、様々なことが起こったとき、自分はどうしたらよいかを学ぶ機会にしてほしいと思います。予想もしない事態や苦しいことが起きたとき、状況をしっかりと把握して、自分に何ができるのか、自分はどうしたらよいかを自分自身で決めるという「主体的に生きる力」を身につけてほしいと思います。



チャレンジ目標を決める子どもたち